

# につちさつち

## 【登場人物】

小林隆太

佐藤智子（隆太の幼馴染）

中田由紀恵（隆太の恋人）

佐藤みなみ（隆太の浮気相手）

佐藤修（智子の兄）

鈴木雅樹（空き巣）

智子の声 隆太ー？ まだー？

隆太は玄関の扉を開ける。

話しながら隆太の幼馴染・智子と、隆太の恋人・由紀恵が入つてくる。

隆太 お待たせお待たせ。

智子 なんか見られたらマズいもんでもあつたの？

隆太 いやいや、まあ、

智子 おじやましまーす。

由紀恵 おじやましまーす。

隆太 来るなら来るつて言つてよ。困るよ急に来られたら。

智子 うわ、ほんとなんもないね。

隆太 うん、全部引越し業者に預けたから。

由紀恵 隆太ん家つてこんな広かつたんだ。

智子 ですよね、足の踏み場もなかつたのに。

由紀恵 だつて私が片付けたつて次来たときには戻つてんだよ。

隆太 それはだつてさあ、

智子 由紀恵さん大変じやないですか、こんなやつが彼氏で？

玄関の方から声が聞こえてくる。

舞台は一人暮らしの部屋の中。  
ほとんどなにも置かれていない。  
外に通じる玄関の扉と、奥の部屋に通じる扉がある。

舞台が明けると、隆太が奥の部屋を扉を閉める。

隆太はやや慌ただしく、部屋を見渡し、なにもないことを探認する。

由紀恵 私、そういう隆太のダメダメなところが好きな

んだよねえ。ほんと隆太はどうしようもないし、頼りないし、役に立たないけど、そういうところがいいよねー。

隆太 ええーひどくないそれ？

由紀恵 あごめん、私嘘つけないから。

隆太 でも、僕もそんな素直な由紀恵が好き。

智子 え、やめてくんない？ 人前でそういうの。

由紀恵 え、なにトモちゃん、嫉妬？

智子 いやいや全然、

由紀恵 トモちゃんも、大変だつたでしよう、こんなのが幼馴染で、

智子 いや、別に慣れたもんですから。

由紀恵 つていうかトモちゃん、なんか今日カワイイイネ

ツクレスしてるよね？

智子 あ、これですか？ なんか私の死んだおじいちゃんがこういうの作つてたらしいんですよ。それなりに有名だつた人らしいんですけど。カワイイから気に入つてんですよ。

隆太 ハー、そなんだ。

智子 え、隆太には言つたことあるでしょ。

隆太 あれ、そだつけ？

由紀恵 え、で、隆太は？ さつきなに隠してたの？ エ

ツチな本かなんか隠してたんでしょう？

隆太 そりや、ボクだつて男なんだから、そういうのは

大目に見てよ。

由紀恵 いいよいよ、私寛容だから。

隆太 ちょっと、一瞬むこう行くけど、覗かないでよ。恥ずかしいもん出てきちゃうから。

由紀恵 わかつたわかつた。

隆太、奥の部屋へ去つていく。

由紀恵 ごめん、もう一回打ち合わせていい？

智子 え、さつきしたじやないですか。

由紀恵 こういうサプライズとか初めてだから緊張しちゃつて。

智子 大丈夫ですよ。リラックスしていきましょう。由紀恵 うん。

智子 まず、由紀恵さんが、タイミングを見計らつて、さつき由紀恵さんに渡したイヤリングを取り出します。

由紀恵 うん。

智子 で、隆太に「この部屋から知らないイヤリング出てきたんだけど。あんた浮気してるでしょ！」つていふ感じのことを言つて、出てつちやいます。

由紀恵 うんうん、

智子 それで、少しして、私の兄がこの家に来て、それとなく隆太に浮気をした男はひどい目に会うようなことをアピールします。

由紀恵 トモちゃんのお兄さんって恐いんでしよう?  
智子 はい、もう精神はチンピラなんで、けつこう恐い  
です。

由紀恵 うわあー、

智子 それで、しばらくしたら私の兄が変装して、「なに  
てめえ人の女に手え出してんだ」とか言つて、いるは  
ずのない浮氣相手の彼氏として隆太を襲います。

由紀恵 それで、トモちゃんがやつつけるのね、

智子 そうです、実は私の兄は、最近話題になつてゐる空  
き巣の常習犯だつたつていう設定で、カバンの中から  
いろんなものがでてきます。

由紀恵 それで、そのカバンのなかから「ドッキリ大成  
功」のプレートが出てきて、ハッピーバースデーの歌ね。

智子 そうですそうです。

由紀恵 うわーうまくできるかなあ、私嘘つくの苦手だ  
から。

智子 バレないよう注意してくださいよ。

隆太が奥の部屋から帰つてくる。

隆太 なんの話してたの?

由紀恵 今ドッキリのね、

智子 (遮つて) ああ、あの、空き巣の話。

隆太 空き巣?

智子 ほら、最近この辺で空き巣被害が多いっていうじ  
やない? 恐いなあつて、  
隆太 ああ、まあ、ここ空き巣入られたつて、なんも取  
るもんないけどね。

智子 あーそうだよねー。(小さく由紀恵を叩く)

隆太 え、つていうかいつまでここにいるの?

智子 いいじやん、のんびりさせてよ、

隆太 えー? やることあんだけど……、

智子 あ、私の兄ちやんもくるから。

隆太 え、なんで?

智子 前言つたじやん。ぜひ一度会つておきたいんだつ  
て。

隆太 急に来られてもなあ。

由紀恵 ちょっと隆太! あんた浮氣してゐるでしょ!

隆太 ……うん?

智子、由紀恵を少し離れたところに連れてつて、小声で、

智子 由紀恵さん、急。

由紀恵 え?

智子 急すぎます。

由紀恵 え、ほんと、うわ、どうしよう、

隆太 え、え、なに、急に?

由紀恵 あんた浮氣してゐるでしょ!

隆太 え、え、なに？ なんで？

由紀恵 (智子に) なんで？

智子 (小声で) イヤリング。

由紀恵 イヤリング！

隆太 イヤリング？

由紀恵 イヤリング！

隆太 イヤリングがどうしたの？

由紀恵 「どうしたの」？ (智子に) どうしたの？

智子 (小声で) あつたの。

由紀恵 あつたの！

隆太 え、どこに？

由紀恵 え？ (由紀恵はまわりや自分の服などを捜す)

智子 (小声で) ポケット。

由紀恵 私のポケットに！

隆太 え？

智子 (小声で) この部屋に。

由紀恵 この部屋にあつたの！

隆太 いやいや、え、知らないよ、え？ 智子の？

智子 私イヤリングしないから。

由紀恵 信じらんない！ 私帰るから！ ね、トモちやん？ 私帰る！

智子 ちよつと落ち着いてくださいよ由紀恵さん。

由紀恵 え、まだ帰らない方がいいの？

智子 (小声で) 帰つてください。

由紀恵 帰るから！ バイバイ！

由紀恵は出ていく。

隆太 え、は？ なんの急に？

智子 隆太さあ、よくないと思うよ、浮気は。

隆太 え、いやいや、え？

智子 え、どうすんの、隆太？ 由紀恵さんカンカンだよ？

隆太 いやいや、どうするつたつて……、隠し通すしか

ないだろ。

智子 え？

奥の部屋から、ぶりつ子の女・みなみが現れる。

みなみ ねえ隆太、なんかおつきな声が聞こえたんだけど。

智子 苦悶の表情。

隆太 (やや男前に) ……大丈夫、なんでもないよ。

みなみ え、あの、誰？

隆太 え？

隆太、みなみの知らない女がいることに「しまった」と思う。

智子 （乱暴な感じで）うわー、かいー、ケツかいー、くそかいーわ、マジくそ、（みなみに）おいてめえなにこつち見てんだよ、誰が浮気相手だケツの穴にメンソール塗つてスースーさせるぞハゲエ！

隆太 いや、あの、

みなみ え、誰、この女人の人？

智子 いや、私は、

隆太 妹だよ。

智子 え？

みなみ ……妹さん？

隆太 そうそう妹いもうと。似てるだろ？

みなみ ……どうかな……。

隆太 あれ、よく似てるって言われるんだけど。

みなみ え、ほんとに妹？

智子 （隆太に小さくうながされて）妹です。

みなみ え、もしかして、浮気相手とかじやないよね？

隆太 いやいやそんなわけないだろ？ こんな恋入なわけないだろ。

みなみ ほんと？

隆太 ほんとほんと、だつてこいつすげえがさつなんだぜ。全然女らしくないもん。なあ？

智子、一瞬どうすればいいか迷うが、

智子 なんだおい？ やんのかおい？  
みなみ あの、トイレに、  
智子 ……思う存分出して來たれや！  
みなみ すみません……！  
智子 おい、  
みなみ はい、  
智子 残尿感には気をつけや！  
みなみ はい、

みなみ、トイレへ。

智子 え、なんでなんでなんでなんで？ なんで妹なん  
て言つたの？

隆太 いや、なんかつい、

智子 ふつうに幼馴染だつて言えばよかつたじやない、  
隆太 だつて怪しいじやん幼馴染とかさあ、  
智子 妹だつて十分怪しいでしょ！

隆太 くそーヤバイ……。どうする？ 由紀恵にも浮気  
ばれそうだし、……全部話すしかないのか、

智子 いや、……いやー、どうかなあ。……まだちよつ  
と待つた方がいいんじやないかなあ。

隆太 そうかなあ、

智子 うん、つていうかね、たぶん、テキトーだよ。

隆太 え？

智子 由紀恵さん、あれテキトーに言つたんじやないか  
なあ？

隆太 テキトーにあんなこと言わないので。

智子 言うよ。由紀恵さんはそういうことテキトーに言  
つちやうよ。

隆太 そうかあ？

智子 そうだよ。

隆太 あ、お前俺のことみんなにあんまり喋るなよ。

智子 みなみ？

隆太 今トイレ行つてるあいつだよ。

智子 なんで？

隆太 倆けつこうあいつに嘘ついてんだよ、  
智子 え、なに嘘つて？

隆太 いや、たとえば、弁護士やつてるとか、  
智子 は？ 何言つてんの？ あんたフリーーターじゃん、  
隆太 いやいやそうだよ、実際はそうなんだよ。

智子 なんでそんな嘘つくの、

隆太 かつこつけたいじやない、頼れる男でいたいじや  
ない、

智子 つていうか、なんかさつきキャラ違わなかつた？  
隆太 気持ち男前キャラだつたでしょ？

智子 そういうキャラでやつてんだよ、みんなの前では、  
智子 由紀恵さんの前ではあんなに頼りなさそうにして  
るクセに、

隆太 仕方ないだろ、そういうキャラ求められてるんだ  
から。くそ、どうする？ (スマートフォンを取り出して)  
やつぱり由紀恵に言うか？

智子 (スマートフォンを奪つて) ダメダメダメダメ。落ち  
着こう。

隆太 返せよ。

智子 落ち着こう、いったん落ち着こう。

隆太 わかつたから返せつて、

と攻防をしているうちに、隆太が智子を襲つてるように見える  
ようになる。

トイレから出てくるみなみ。

それに気がつく、隆太と智子。

そつとトイレに戻つていくみなみ。

隆太 待て待て待て待て、

みなみ やつぱり浮氣してんじやん、

隆太 違う、誤解だ誤解、

智子 うわー、かいー、ケツかいーわあ、

隆太 こんな女としての魅力ゼロなやつと浮氣するわけ  
ねーだろ？

智子 うわ、足くせー、やつぱ一ヶ月風呂入んねーと足  
くせーわあ、

みなみ え、あの、お名前なんていうんですか？  
智子 名前？ 佐藤智子ですけど？  
みなみ え？  
智子 え？

みなみ 隆太くん、小林だよね？  
隆太 ……。

智子 ……色々あつた家庭なんですか！ つていうか名  
字違う兄弟とかそこらじゅうにいるんですけど？ な  
んか文句あんですか？

みなみ 隆太くん、いつたん外してくれない？

隆太 え？

みなみ 二人で話したい。

隆太 いや、それは、

みなみ お願ひ。

隆太 ……わかつた、

隆太、智子にアイコンタクトと「うまくやれよ」という仕草を  
して去る。

智子 なんですか？ あんたと話すことなんかないです  
けど？

みなみ (ぶりつ子からがらつと態度が悪くなつて) え、つて  
いうか、ほんとに妹ですか？

智子 ……そうですけど？

みなみ へえー、

智子 え、なんかきつきとキヤラ違わないですか？

みなみ え、ああ、そりや男の前ですから。求められて

んですよああいうキヤラが。

智子 ……へー、そうですか。

みなみ え、いくつですか、年？

智子 24ですか、

みなみ へえー、じやあ一応あたしより4つ上なんです  
ね。

少し間。

智子 え？

みなみ 結婚してんですよ私。

智子 20でですか？

みなみ たくさんいるでしよう。

智子 いやでもそれあいつが知つたら、  
みなみ ああ、知つてますよ隆太。合意の上での不倫で  
すから。

智子 (泣い顔)

みなみ でも、隆太ハンパないくらいヤバイから、いつ

そ離婚して隆太と結婚しようかなあなんて、

智子 やめたほうがいいですよ、悪いこと言わないから。

みなみ いやいや、それは私が決めることですから。

智子 年収1000万なんですね、

少し間。

みなみ そうそう、知らないんだ。

智子 はじめて知りました……。

みなみ しかも友好関係超広いじゃないですか？ イチ

ローとか、新垣結衣とか、ふなっしーとか全員知り合

いらしゃいし、熊と戦つて勝つことあるらしいし、しかも2年間だけヤンキースにいたんですよね？

智子 ……そなんですよね、

みなみ そんな男が彼氏なんてほんと最高じゃないです

か、だから、絶対渡しませんからね。

智子 ええ、もう、ご自由にどうぞ。

みなみ ま、つて言つても不倫なんですね。

智子 あの、ほんとに20ですか？

みなみ え？ はい。

智子 なんか近くでよく見ると20の割に肌が疲れてる

気が。

みなみ 余計なお世話です。つていうかあなたこそほん

とに妹ですか？

智子 はい。

みなみ 似てなさすぎでしよう。

智子 ほつといてください。

少し間。

智子 あの、なんか20年前くらいにノストラダムスの大予言つてあつたでしよう？

みなみ ああ、恐怖の大魔王が降つてくるつていう、

智子 あたしけつこう本気で信じててー、「どうせ世界が終わんならもう勉強なんかしないで遊びまくろう！」

つて思つて、遊びすぎて先生や親に怒られたんですよ。どうしてました？ ノストラダムスの時期。

みなみ あー私もそんな感じでしたよ。私ちようど高校受験のときで、ノストラダムス信じて勉強やめましたもん。

智子 35。

みなみ あ！

智子 高校受験つてことは15歳ですもんね？ 15+20で35歳。

みなみ 違います、

智子 違わないでしよう、化粧で肌年齢はごまかせませんからね！

みなみ まだ誕生日来てないから34歳ですう！

智子 うわ最悪、14歳もサバ読んでる、

みなみ つつーか20年前だつたらあんた4歳じやん！ どうせ勉強してないんじやん！

智子 かまかけたんですう。ひつかかつてやんの。みなみ ……。

智子 なに？ みなみ 言わないでくださいよ、

智子 ええ？ みなみ 隆太には言わないでくださいよ、

智子 どうしようかなあ？ みなみ お願いですから、

智子 ……じゃあこれ以上私と隆太のことは詮索しないでくださいよ、これ条件ですから。

みなみ わかりました、智子 よろしい。

隆太、玄関からやつてくる。

智子 あの、そろそろお話は、

智子 ああ、終わつた終わつた、大丈夫、

みなみ (ぶりつ子の感じで) うん、大丈夫ー、妹さん、と

つてもいい人だねー、

隆太 ああうん、こう見えていいやつなんだよ、うん、

智子、由紀恵が忘れていった財布が目に入る、

智子 ん、これ、

隆太 ん？

智子 由紀恵さんの？

隆太 あ……、

由紀恵が入ってくる。

由紀恵 おじやまします、

智子 (みなみの前に立ちふきがり) あああ！

隆太 (同時に由紀恵の前に立ちふきがり) あああ！

みなみ え？ え？

智子 あつあつあーー！

と叫びながらみなみを奥の部屋に閉じ込める。

由紀恵 ええ、なに？

智子 いえその、……新しいダイエットです。

由紀恵 え？

智子 あれ、知らないんですか、みんなやつてますよ？

由紀恵 知らない。

智子 テレビでやつてたんですけど、こう、手を広げながら、あつあつあー、て言うと、血行が良くなつて痩せるのにいいんですよ。ね？

隆太 そようそう。

由紀恵 えなに、隆太もダイエットしてんの？

隆太 うん、最近ちょっと運動不足で。

由紀恵 あんた浮気してんでしょ！

隆太 (突然でびっくりする) うわああ！

智子 (由紀恵に小声で) 由紀恵さん、今じゃない。

由紀恵 なんかちょっと楽しくなつてきちゃつて。(隆太

に) 浮気してんでしょ！

隆太 うわああ！

智子 (小声で) 由紀恵さん、

由紀恵 浮気してんでしょ！

隆太 うわああ！

みなみが出てくる。

みなみ 浮気？

隆太・智子 あつあつあーー！

と言ひながら智子は由紀恵の前に立ちふきがり、隆太はみなみを奥の部屋に入れて扉を閉める。

智子 うわー血行よくなるー、痩せるー！

由紀恵 え、そんなに効くの、それ？

智子 はい、もう、1週間続けて5キロ痩せました。

由紀恵 ウソ、そんなに？

智子 はい。

由紀恵 あんた浮気してんでしょ！

隆太 うわああ！

またみなみが出てくる。

みなみ 浮気？

隆太・智子 あつあつあー！

と言いながら智子は由紀恵の前に立ちふきがり、隆太はみなみを奥の部屋に入れて扉を閉める。

智子 うわー瘦せるー！ 今ので1キロ落ちたかも、

由紀恵 ほんとに？

智子 (小声で) あんまりやりすぎたらかわいそuddからやめてください、

由紀恵 なんか面白くなつちやつて、

智子、隆太を見ると、かなりのダメージを受けている様子。

智子 ほら、あんなんなつちやつてますから、

由紀恵 あはは面白いね、

智子 いつたん帰つてください、うまいことやつときますから、

由紀恵 わかつたわかつた。じやあね、隆太。

隆太 うん、じやあね……、

由紀恵、帰ろうとする間際に、

由紀恵 浮気してんでしょ！

隆太 うわああ！

智子 (小声で) 由紀恵さん！

由紀恵 ごめんごめん、じやあね。

由紀恵は去っていく。

智子 隆太、大丈夫隆太？

隆太 終わりだ……、この世の終わりだ……。

智子 大丈夫、終わらない、この世はまだ終わらない。

隆太 (かなりおびえている) あああ、あああ、あああ、

智子 (抱きしめてあげる) 大丈夫、おびえないで、世界は隆太の味方だから、

みなみが出てくる。

みなみ あの……、

智子 あーかいー、ケツかいーわあ、

みなみ え、あの、なにかあつたんですか？

智子 いやいやいや、なにも？

みなみ なんか何回も浮気って聞こえたんですけど。

隆太 もうおしまいだ、という様子。

智子 いや、それは、

みなみ ていうか誰か女人の人来てましたよね？

誰なん

ですか？ 浮気ってなんなんですか？

隆太 ……ごめんみなみ、実は……、

智子 ……。（観念した様子）

隆太 実はこいつ、浮気してんだ。

少し間。

智子 え？

みなみ 浮気してるんですか？

智子 いやいや、え？

隆太 実はさつきこいつの浮気相手が来てて、ちょっと  
揉めてたんだよ。

みなみ そうなんですか。

智子 いやいや

隆太 黙つてろお前は。

みなみ でもさつき、女人の声が聞こえたと思つたん

だけど、女人の人と付き合つてゐるの？

隆太 ……お前まさか女人の人と女人人が付き合つてゐるの

はおかしいとかいう偏見を持つてるのか？

みなみ あ、ご、ごめんなさい、そうだよね……

隆太 おう、わかつてくれたならいいんだ。

みなみ でも……（智子に）それでも浮気はよくないです

よ。ダメです、浮気なんかしちゃ。もつと、浮気される方の気持ち、考えてください。彼女さん、悲しませたらダメですよ。

智子 （「え、なんでそんなことをお前が言えるの？」とやや驚いた顔）

隆太 そうだぞ智子、浮気なんて最低だ。浮気っていうのはな、恋人に対する裏切りだ。そうやつて、好きな人を傷つけるのはお前の望んでいることか？ 違うだろ。たつたひとりの人を愛する、それが、好きな人を幸せにする唯一の方法じやないか。

みなみ 幸せになれませんよ、そんな恋愛。ちゃんと、けじめをつけるんですよ。わかりましたか？ トモコさん。

智子 （かなり不満げに）……すみません。

隆太 ごめん、少し二人つきりにさせてくれないか、ちよつとこの浮気の件について、二人で話し合いたい。

みなみ うん、わかつた。

隆太 いいつて言うまで、この扉は開けないでくれ。い

いね？

みなみ うん、終わつたらいいつて言つてね。

隆太　おう。

みなみは奥の部屋へ。

隆太　（静かな達成感をもつて）いやあ、危なかつたな。

智子、隆太に非難の目を向ける。

隆太　え、なに？

智子　なにじやねえよ、

智子　え、あのさあ、

智子　え、あのさあ、

智子　え、なに？

智子　だつて結婚してんでしょ？　あの人。

智子　なんであいつにあんなこと言われなきやいけない

の？（マネして）「それでも浮気はよくないですよ。」え、

なんで浮気してゐるあいつに、浮気してない私がそんな

こと言われなきやいけないの？

隆太　まあまあまあまあ、智子は浮気してゐるって設定だ

から、

智子　え、で、なんかそのあとさあ、

隆太　うん、  
智子　乗ってきたよね？

隆太　うん？

智子　なんか、隆太も乗ってきたよね？  
隆太　ああまあ、乗つたといえれば乗つたよね。

智子　え、どういう気持ちで言ってたの？　「浮気つて

いうのはな、恋人に対する裏切りだ。」どういう気持ちで言つてたの？　「たつたひとりの人を愛する、それが、好きな人を幸せにする唯一の方法じやないか。」ねえあれどういう気持ちで言つてたの？

隆太　いや、まあ、そうだなあと思つて、

智子　じや浮気すんなよ。そう思うなら浮気すんなよ。

隆太　まあ、頭でわかつても、心はそうはならない、

それが、人間だよね。

智子　え、なにかつこよく言つてんの？　ひとつもいいこと言つてないからね。もう勘弁してくんない？

智子　ごめん、なんかとつさに、

隆太　あいつもよく信じたな、

智子　バカなんだよあいつ、

隆太　もうでも、いづれバレるよこんな嘘、  
大丈夫だつて、なんとかなるよ、

智子　え、あのさあ、ひとつきいていい？

隆太　うん、  
智子　なんで二股なんかしてんの？

隆太 いや、違うんだよ。違う。

智子 なにが？

隆太 こんなはずじやなかつたんだ。

智子 どうのこと？

隆太 もともとは由紀恵と付き合つて、別に俺はそれで十分だつたんだよ。

智子 ジやなんで、あの女とも付き合つてんの？

隆太 その、俺がバイトから帰る途中で、みなみが痴漢に遭つてたんだよ。助けなきやつて思つて、痴漢追い

払つたら、今度お礼したいからつて言われて連絡先交換して。それで会うようになつて……。そのうちに距離が近くなつて、で気づいたらいつのまにか付き合つてゐみたいな感じになつてたんだよ。……今考えれば、

結婚してゐたつてわかつたときになんと別れておけばよかつたんだけど。でも、なんだか突き放すのもかいそくな気がして。みんなちやん、すごく俺のこと頼つてくれるし。

智子 それはちやんと突き放せなかつた隆太が悪い。

隆太 そうだよな……。

智子 まあ、そうやつて人のこと想つてあげられるところは本当にいいとこだと思うけどさ、私だつて隆太に助けられた人だし。

隆太 ああ、ちつちやいころな。お前泳げないのに海なんか入るから。

智子 そりや、私も感謝してるけどさ、でも、ダメなものはダメつてちやんとけじめつけないと。

隆太 そうだよな。みなみちやんにもこんなことで人生壊してほしくないもんな。まだハタチなんだし。

智子 え……、ああうん、そうだね。

隆太 どうすればいいんだろう？

智子 だから、うまいことみなみちやんと別れて、今まで通り由紀恵さんと続ければいいんだよ。このこと由紀恵さんには黙つててあげるから。

隆太 でも、やっぱりみなみちやんがかわいそうな気がして……。

智子 そこはみなみちやんのためだと思つて、

チャイムの音。

隆太 誰だろう？

扉の覗き穴をのぞく。

隆太 え、え、なんか恐いにいちやん立つてんだけど？

智子 え？

智子、覗き穴をのぞく。

智子　あ、どうぞどうぞー。

智子、扉を開ける。

智子の兄・修が入ってくる。

修　どうも、失礼します。

隆太　え、え、なんで入れちゃうの？

修　はじめまして、智子の兄の、佐藤修って言います。

隆太　え？

智子　私の兄ちゃん。

隆太　あ、智子のお兄さん？　はじめまして。

修　会えて嬉しいです。智子がお世話になつてるそうで。

隆太　いえいえそんな。

修　智子から話はききました。小学生のときに、海で溺れそうになつてた智子を助けてくれたそうで。

隆太　いや、そんな大したことじやないですから。

修　つい最近になつて智子からその話をききまして、ぜ

ひ　一度会つてお礼をしなければと思つて。

隆太　いえいえそんなお礼なんて。

智子　兄ちゃん、けつこう恩はしつかり返したい人だから、

隆太　いやいや、でも、いいよ。

みなみが出てくる。

みなみ　いいの？

隆太　あつあ！

隆太は扉を閉める。

修は気がつかなかつたようだ。

智子　（隆太に小声で）なんで隠すの？

隆太　これ以上情報増やしたくない……誰が何を知つて誰が何を知らないのか、わけわからなくなる……。

修　どうしました？

隆太　なんでもないです。

修　ぜひともなにかお礼を。なんでもしますんで。

隆太　いえいえ、いいですよ。

みなみが出てくる。

みなみ　いいの？

隆太　よくない！　出てこいつて言うまで絶対つて出で

くんな！

隆太は扉を閉める。

修は気がつかなかつたようだ。

修 またなにか？

隆太 いえいえ、

修 誰かと会話しませんでした？

隆太 あー、あの、僕、見えるんですよ。

修 見える？

隆太 ええ、靈的なものが、いや、見えるというか、き

こえる？

修 あ、そうなんですか、素晴らしい能力をお持ちで。

隆太 ええ、まあ。あ、ヤバイヤバイ、急にお腹痛くな

修 ってきた。

修 大丈夫ですか。

隆太 ええ、きっとトイレにいけば大丈夫ですから。

修 お大事にしてください。

隆太、トイレに行き際に、智子に「みなみをなんとかしろ」と

いう感じの手振り。

隆太はトイレに。（トイレは見えるようになつてている）

智子 来る前に連絡ちようだいって言つたのに、

修 修したよ。したけど返信なかつたから。

智子 え？

智子、自分のスマートフォンを確認する。

智子 あ、ほんとだ、ごめん。

修 それで、誕生日の彼にドッキリを仕掛けんだよな。

智子 え、ああ、そうなんだけど、

修 彼が浮気してるつて設定なんだろ？

智子 ……ああうん、設定ね設定ね。

修 で、うまいこと俺が浮気をしたらどんなひどい目に

遭うかっていうことをそれとなく示すわけだな。

智子 ああうん、そうなんだけど。

修、大きくため息。

智子 え、なに急に、どうしたの？

修 皮肉なもんだ、こんなことになるなんて。

智子 え、え、なに？

修 たぶん俺、不倫されてるんだ……。

智子 え、え、ほんとに？

修 ああ。

智子 え、みつちやんさんが？

修 ああ、みつちやんが。

智子 なんでなんで？

修 なんか最近帰りが遅い日が多いなつて思つて、ダメだと思いつながらみつちやんのケータイ見ちやつたんだ

よ。そしたらメールの痕跡はほとんどなかつたんだけど、着信履歴と発信履歴にやたらと同じ名前があつて。

きっとメールは消してるんだろうけど、通話履歴を消すのは忘れてたんだろう。

智子 いやいやでも、職場の人とか、そういう可能性だってあるでしょ？

修 いや、留守電も入つてたんだ。そしたら、「まだ着かないの？ 早くお前とイチャイチャしたいよ」っていう声が入つてて。

智子 うわー。

修 考えられるか？あの清純なみつちゃんがだぞ？

智子 いや、あのつて言われても私見たことないから。

修 なんで見たことないんだ。

智子 だつて兄ちやんが頑なに会わせてくれないからでしょ。ふつう有り得ないんだからね。自分の兄貴の奥さんの顔知らないなんて。結婚式くらいあげてよ。

修 俺はそういうのやらないんだよ！

智子 なんで。

修 だつてそれは、恥ずかしいじゃないか。俺の女の趣味とかわかつちやうんだから。もう、俺の女の理想像を体現したような人なんだから。

智子 ほんと兄ちやんそういうよくわからないところ恥ずかしがるよね。

修 だつたらお前、俺はその辺を全裸で歩いたつて恥ずかしくないけど、お前だつたらその辺を全裸で歩くの恥ずかしいだろ？

智子 いや、それは恥ずかしいけど。

修 だから同じだよ、なにが恥ずかしいかは人それぞれなんだから。つつーかお前絶対全裸でその辺歩くなよ。そんなことしたら兄ちやん許さないからな！

智子 しないよ。なに勝手に一人で盛り上がりつてんの。修 ああくそ、いても立つてもいられない。電話しようか……。

智子 不倫相手に？

修 番号控えてきたんだよ。

智子 やめなよヒトン家で。

修 あそうか！俺が不倫相手にガンガン言つてるところで隆太くんがトイレから戻つてくれれば、これ隆太くんをビビらせることができるな。一石二鳥じゃないか。

智子 いやいや、それ本当に恐いから。

修 いい、かけるぞ俺は。

智子 ここでかけなくとも。

修、スマートフォンを出して、息を整える。  
番号をうつ。

トイレにいる隆太の電話が鳴る。

隆太 ん、誰だこの番号？ はい、もしもし？

修 ああもしもし、小林さん？

隆太 はい、そうですけど。

修 佐藤みなみつて女、知りませんか？  
智子 佐藤みなみ……？

智子、なにかに気づいて、部屋の奥を見る。

智子、驚き、震える。

修 もしもし？ 佐藤みなみつていう女知りますか？

隆太 いや、あの……、

修 私、佐藤みなみの夫なんですがね、

隆太 （電話を離して）うわ、やばいやばい……、（電話を耳元に戻す）

智子、恐る恐るトイレの前まで行き、扉に耳を当てる。

修 あの？ もしもし？ 小林さん？ あの、小林隆太

さんですよね？

隆太 は、はい、そうです、

智子、絶望的な状況に頭を抱える。

修 あのね、妻のケータイに、あなたの通話履歴がたくさん残ってるんですよ。妻とはどういう関係ですかね？

隆太 （電話を離して）あのバカ消しとけって言つたのに、

修 小林さん、

隆太 （電話を戻して）はい、はい、

修 妻とはどういう関係なんですか？ 職場の方ですか？

隆太 あ、はい、そうです。

修 職場というの？

隆太 はい？

修 その職場というのはどこですか、

隆太 いや、ですから佐藤さんと同じ職場ですよ、

修 その職場というのはどこですか？

隆太 （電話を離して）えーと……、（電話を戻す）ふ、服屋

ですよ服屋。

修 そうですよね、「クラウド」っていう服屋ですかね？

隆太 そうですそうです、「クラウド」です。

修 あれ、おかしいなあ、「クラウド」には女性の店員さんしかいなかつたはずでけどねえ、

隆太 （電話を話す）やばい、はめられた……、（電話を戻す）お、オーナーです。

修 オーナー？

隆太 ええ、そうです。オーナーは男なんですよ？

修 なぜオーナーが妻とそんなに頻繁に電話をかけあつてているんですか？

隆太 それは、佐藤さんは優秀だから、経営に関することを教えたり、相談に乗つてもらたりするんです。

修 じやあ質問させてもらいますがね、あの留守電はなんですか？

隆太 留守電？

修 妻の留守電にね、「まだ着かないの？」早くお前とイチャイチャしたいよ」っていう声が入つてましたけどね？

隆太 (電話を離して) なんで消しとかないんだよ。

修 どういうことですかね？

隆太 (電話を戻して) そ、そのつまり、イチャイチャといふのは、その、試着という意味でして、

修 試着？

隆太 ええ。

修 なんで試着がエッチなんだよ？

隆太 それはつまり、……試着といふのは、衣服の着用、衣服・着用、衣服・着用、イ・チャ、イ・チャイチャ

イチヤですよ、

修 無理があるに決まってんだろ！

隆太 すみません、許してください……

修 おい、観念しろよ。不倫してんだろ？ なあ？

隆太 すみません……。

修 すみませんじやねえんだよ。てめえヒト様の女に手

え出してどうなるかわかつてんだらうな？

隆太 すみません……。

修 すみませんじやねえんだよ、てめえん家乗り込むぞ

こらあ！

智子 (小声で) もう乗り込んでるよ……。

隆太 勘弁してください、家にだけは来ないでください。

修 おい、どうけじめつけてくれんだ？ あ？ 声聞いた感じ、20代前半つてとこだな？ つたく、そんな年で34の女に手え出しやがつて、

隆太 34？

修 34だよ34！

隆太 え、に、20じやないんですか。

修 バカじやねえのか、34だよ34！

隆太 (電話を離して) マジかよ……、

修 おい、どうけじめつけてくれんだ？ あ？ 小林隆

太さんよお、

隆太 すみません、なんでもします、なんでもしますから。

修 おう、じやあ手切れ金だ。手切れ金用意しろ。

隆太 手切れ金。

修 おう。二週間以内に100万だ。

隆太 ひや、100万？

修 ああ。

隆太 そんな、そんな金額無理ですって……、

修 ああそうか、じやあてめえん家乗り込んでいいんだな。てめえん家乗り込んで、大声で怒鳴り散らして

やるよ！ あーあ、住みづらくなるだらうなあ。

隆太 すみません、なんとか用意しますから、  
修 おう、二週間以内に用意できなつたら、てめえん

家乗り込んで、てめえの前歯二本もらつてくからな。

また電話するわ。（切る）

智子 兄ちゃん、あんまりここで大声出すと、りゅ、…

…彼に迷惑かかるから。

修 ああしまつた。つい大声出しちまつた。隆太さんに

迷惑かけるわけにはいかないもんな。

隆太 やばい、どうしよう、100万なんて、ただでさえ、今50万くらい借金してゐるのに。合わせて150

万、どう考へても無理だ。…あ、そうか、

隆太、トイレから出でくる。

修 あ、大丈夫ですか、お腹の具合は？

隆太 え、ええ、すつかり。あの、お兄さん、さつきお

札になんでもするつて言つてくれましたよね。

修 ええ、俺にできることならなんでも。

隆太 あの、大変厚かましいお願ひなんですが、

修 ええ、なんでも言つてください。

隆太 可能でしたら、お金をいだくことはできません

か？

修 金？

隆太 ああすみません！ とても無礼なお願いだとは思

うんです！ ですが、どうしても急に必要になつてしまつて！ 本当に無礼なことはわかつています！ ですが、なんとか！（頭を下げる）

修 いやいやそんな、頭をあげてください。あげてください。わかりました。妹の命の恩人です。できる限りのことはさせてください。

隆太 ありがとうございます！（頭を下げる）

修 やめてください、頭をあげてください。それで、いくらくらい必要なんですか。

隆太 二週間以内に、150万…。

修 150万！？

隆太 ええ、

修 二週間以内に150万ですか…？

智子 ちよつと、それはいくらなんでも、

修 待て、智子は口を出すな。これは男の約束だ。俺はなんでもするつて隆太さんに言つたんだ。男に二言はない。

智子 いや、でも…、

修 ちよつとすみません、電話をさせてください。（電話をかける）

隆太（隆太の電話が鳴る）げ、さつきのやつからだ。すみません、失礼。

隆太はトイレに入る。

なんとか用意しましよう。

修 おい、小林隆太か？  
隆太 は、はい、そうです。

修 さつきの手切れ金の話だけどな、  
隆太 はい、

隆太 ありがとうございます！  
修 少し電話をかけさせてください。（電話をかける）  
隆太 （電話が鳴る）またあいつかよ、

修 やっぱり100万じゃなくて150万だ。  
隆太 え！ ちょっと待ってください！ さつき100

万だって言つたじやないですか！

修 うるせえ、気が変わったんだよ！ 二週間以内に150万だ！ ジやなきや家乗り込むぞ！（電話を切る）  
隆太 マジかよ、合わせて200万だ。

隆太、トイレから出てくる。

隆太 はいもしもし？  
修 もしもし？ 小林隆太か？ 手切れ金、やっぱり200万だ！  
隆太 え！  
修 用意しねえと家乗り込むぞ！（切る）

隆太はトイレから出てくる。

修 隆太さん、150万、二週間以内になんとかなります！

隆太 あの、そのことなんですが、  
修 ええ、

隆太 やっぱり200万にしていただけませんか？

修 200万！？

隆太 申し訳ございません！ 急に必要になってしまいまして！

智子 いや、あの、

修 智子は黙つてろ！ 男に二言はないんだ。隆太さん、

修 小林隆太か？ やっぱり250万だ！（切る）  
隆太 ええ！！

隆太の電話が鳴る。  
隆太トイレへ。

修 隆太さん！ 200万用意できます！  
隆太 すみません、250万でお願いします！  
修 ええ！！ 少し待ってください。（電話をかける）

隆太、トイレから出てくる。

修 隆太さん！ 250万用意できます！

隆太 300万でお願いします！

修 えええ！！！（電話をかける）

隆太の電話が鳴る。

隆太トイレへ。

修 小林隆太！ やっぱり300万だ！（切る）

隆太 えええ！！！

隆太、トイレから出てくる。

修 隆太さん！

隆太 350万！

修 ああ！（電話をかける）小林隆太！

隆太、息切れして声を出せない。

修 おい、きこえてんのか小林隆太！

隆太、おそるおそる振り向くと、修が電話をかけている。

修 おい、きこえてんのか小林隆太！

隆太（恐る恐る電話に）……はい、

修 聞こえてんなら返事しろ！

隆太、電話の相手が修だとわかり、絶望的な表情。

隆太 すみません……、

智子、隆太を隅の方に連れて行く。

修 350万だ！ わかつたな！（切る）隆太さん、（見失う）あれ、隆太さん？ あ、隆太さん。

隆太 はい、すみません……。

修 350万、なんとか用意できます！

隆太（泣きそうになりながら）……よかったです、

修 もう増えませんか？

隆太 はい、増えません……。

修 大丈夫ですか？

隆太 はい、大丈夫です……！

智子（小声で）兄ちゃんにビビってんの、

修 ああ、そうかそうか、浮気してた設定だつたんだもんな、ひとまずドッキリ成功だな！

智子 うん、じゃあもういいから、出てつて。

修 ああうん、オッケー オッケー。あ、ちょっと用事を

思い出したんでいっただん出でます。

隆太 ああ、はい、出でつてください。

みなみ、奥の部屋から出でくる。

みなみ 出でつて大丈夫?

隆太 ダメだあ! (閉める)

智子 あつあつあー! (修の目の前で)

修 どうした?

智子 新しいダイエット。

修 隆太さんは、また靈と会話してんですか?

隆太 ええ、今、お兄さんに靈がとり憑こうとしてたので、ダメだあつて言つて追い払いました。

修 あ、本当ですか! すみません、よかつたです、取り憑かれなくて。あ、350万、必ず用意しますんで。

(智子に)もし小林隆太が用意してなかつたら、そんときは小林隆太の体の売れる部分全部売つてやるよ、はは。それじやあいつたん失礼します。

修は玄関から出で行く。

隆太、震えている。

智子 大丈夫、そんなことにならないように私がなんと

か言つとくから。

隆太 さ、寒いなあ、夏なのになあ。寒さで奥歯が力チカチ言つてるよ……、

智子 大丈夫、大丈夫。いい? 絶対に兄ちゃんとみなみさんはここで会わせちゃダメだから。

隆太 う、うん、

智子 とにかくみなみさんに早く出でつてもらわないと。

隆太 あいつ今日泊まつてくつもりだから、なかなか帰つてくれないとと思うなあ。

智子 いいから、説得しにいくよ。

隆太 う、うん……。

二人は奥の部屋へ。

部屋には誰もいなくなる。

チャイムの音。

誰も出でこない。

少しして、空き巣の雅樹が現れる。

雅樹 はい、失礼しますよー。誰も、いない、ですね。

無用心だな鍵開けつ放しなんて。空き巣に入つてくださいと言わんばかりじやないか。にしても、なんにもねえなこの家は。ほんとに入住んでんのか、ここ?

雅樹、隅の方にある、由紀恵が置いていった財布を見つける。

雅樹 お、財布じゃないですか。取ってくれと言わんばかりに置いてありますねえ。

雅樹が財布の中身を見ていると、奥から智子が現れ、目が合う。

智子ええと、どちら様ですか？

雅樹……お疲れ様です！ 警察のものです！

智子 警察？

雅樹ええ、最近空き巣被害が頻発しているところで、見回りをしていたのであります。

智子制服は着てないんですか。

雅樹私服警官であります！

智子え、なんで財布持ってるんですか？

雅樹あ、……これは、落し物を交番へ届けよう。

智子落し物？

雅樹ああ！ しまった、ここは家の中でありましたね。申し訳ございません、本官はよく道に財布が落ちていい

ると交番に届けているので、ついつい。

智子はあ。

雅樹失礼いたしました。（財布を置く）

智子ご苦労様です。

智子は奥の部屋に戻っていく。

雅樹……今の女がしてたネックレス、有名なデザイナーが作った、世界に3つしかないと言われているネックレスによく似てたな。少し危険だが、なんとか狙いたい。……とりあえず、今はこれだけもらって後でまた出直そう。

雅樹、財布を持って出でていこうとする。

玄関からやつてきた由紀恵とハチ合わせになる。

由紀恵え？

雅樹あ、

由紀恵えーと、

雅樹あ、えーと、私は、

由紀恵あ、ああどうもはじめましてお兄さん、中田由紀恵です。

雅樹……ああ、ええ、はじめまして。

由紀恵あ、その財布、

雅樹ん、ああ、これは、

由紀恵私の財布です、よね？

雅樹……だと思いましたよ。そう、こう、渡そうと思つてね、手に持つてたんです。どうぞ。

由紀恵あ、ありがとうございます。あ、あの、ちよつ

と打ち合わせてもいいですか。

雅樹 打ち合わせ……？

由紀恵 はい、私、自分なりにいろいろと考えてみたん

ですけど、

雅樹 はあ、

由紀恵 まず、お兄さん、空き巣じやないですか、

雅樹 (驚く) なんで俺が空き巣だつてわかつた……！

由紀恵 ……え、わかるもなにも、智子からきいてます

から。

雅樹 (独り言で) ……トモコ？ あ、そうか、この前手

を組んで一緒に盗みをやつた鬼東トモコのことか。

由紀恵 どうしました？

雅樹 いやいや、ちょっと質問していいかな？

由紀恵 はい、

雅樹 トモコとはどういう関係だ？

由紀恵 ああ、まあ、お友達、ですかね？

雅樹 なるほど、つていうことは、俺たちは仲間つてこ

とでいいんだな？

由紀恵 まあ、仲間つて言えば仲間ですね。

雅樹 そうかそうか。ありがとう。

由紀恵 智子と三人で、成功させましようね。

雅樹 そういう計画になつてんだな。トモコのやつ、事

前に連絡くれればいいのに……。

由紀恵 それで、私思つたんですけど、お兄さんにはサ

ングラスかけてジャンパーを着てもらおうと思つてた  
んですけど、ちょっとそれだけじやぱつと見「空き巣」  
つて言われてもピンとこないと思うんですよね。

雅樹 うん？

由紀恵 それで私考えたんですけど、常に手に針金持つ  
てるっていうのはどうですか？

雅樹 ダメだよ。いかにも空き巣っぽいじやないか。

由紀恵 いや、だからいいかなつて思うんですけど。

雅樹 いいか、空き巣つてのはな、なるべく一般の人に

溶け込めなきやダメなんだ。

由紀恵 ああ、なるほどなるほど、リアリティを重視す  
るつていうことですね？

雅樹 ……いや、リアリティつてのはよくわからんけ  
ど、とにかく空き巣つてのはぱつと見空き巣だと思わ  
れないようになきやダメだ。つていうか、常識だぞ  
こんなの。お前さては、経験浅いだろ。

由紀恵 そうなんですよ、こういうの初めてで。

雅樹 ちゃんとトモコに教えてもらわなかつたのか。

由紀恵 そうなんですよね。

雅樹 そうか、俺も一回だけトモコと一緒にやつたこと

あるけど、トモコはかなりの実力者だな。

由紀恵 あー智子はすごいいらっしゃいですね。高校の時から

やつてたんですね？

雅樹 高校のときから！？

由紀恵 あれ、知らないんですか？  
雅樹 いや、初めて聞いたよ……。

由紀恵 クラスメイトの誕生日に、ほかのクラスメイト全員で仕掛けたらしいですよ。

雅樹 クラスメイト全員で！？

由紀恵 はい、担任の先生も一緒に。

雅樹 先生まで！？

由紀恵 すっごいびっくりしたらしいですよ。

雅樹 そりやそりや、もう、家ん中空っぽだろそんな人數で行つたら。

由紀恵 そのクラスメイトも、思い出に残るバースデーサプライズだつたみたいです。

雅樹 とんだサプライズだな……。

由紀恵 あと、大学生のときもサークル仲間に仕掛けたらしいんですけど、それは失敗したらしいんですよ。

雅樹 失敗？

由紀恵 ちょっと行動が不審で警察に声かけられちゃつて、

雅樹 うわ、

由紀恵 持ち物とかも検査されちゃつたらしいんですよ、

雅樹 で、どうなつたんだ？

由紀恵 でも事情を話したら、大丈夫だつたみたいです よ。

雅樹 え、え、逮捕されなかつたの？

由紀恵 いい警官だつたみたいですよ、笑顔で「頑張りなさい」つて言われたらしいです。

雅樹 頑張りなさい？ 何考えてんだその警官。

由紀恵 え、お兄さんはけつこう経験あるんですか？

雅樹 まあ、俺はもうプロレベルだからな。

由紀恵 大勢とかでやつたりするんですか？

雅樹 いや、基本的にはひとりでやる。つていうか、一般的にはひとりじやない方が珍しいからな。

由紀恵 あ、そなんですね、たとえばどんな風にやるんですか。

雅樹 まあ基本的には住宅街を歩いていて、ここだつていう勘が働いた家に仕掛ける。

雅樹 ま、基本的にはそうだな。

由紀恵 え、仕掛けられた人、怒つたりしないんですか？

雅樹 まあ怒るやつも悲しむやつもいるだろうけど、俺には関係ねえからな。ショックで自殺するやつもいるらしいぜ。

由紀恵 自殺！？

雅樹 まあ、かわいそうだけど、そんなの気にしてたらこの世界はやつてけねえからな。

由紀恵 すごい世界なんですね。智子が他人に仕掛けたつて話はきいたことないんですけど。

雅樹 ふつうは他人だよ。

由紀恵 でも私がきいた話だと、智子が仕掛けたのは友達とかバイト仲間とか、あと彼氏とか、

雅樹 彼氏まで！？

由紀恵 あ、自分のおじいちゃんおばあちゃんに仕掛けたこともあるつてきました。

雅樹 おじいちゃんおばあちゃん？ トモコえげつねえな！

由紀恵 はい、泣いて喜んだらしいですよ。

雅樹 どうなつてんだよトモコの家族、いかれてんな。

由紀恵 そう、それで、作戦なんですけど、空き巣といつつ、どつちかっていうと強盗みたいな感じなんです

よね。

雅樹 強盗？ おいおい俺空き巣だぜ。

由紀子 まあまあまあ、智子のプランだから大丈夫ですよ。

雅樹 まあ確かに。トモコのプランだつていうなら安泰だな。

由紀恵 ちよつと設定をおさらいしどきたいんですけど、

雅樹 設定？

由紀恵 はい、まず私の彼氏が浮気してるつていう設定なんですよ。

雅樹 おう、

由紀恵 で、そこにお兄さん演じる、浮気相手の男が頃合いを見計らつて登場します。

雅樹 あ、なるほど、設定つていうのはそういうことか。

由紀恵 はい、そこの玄関を開けて登場してくださいね。

雅樹 あ、この家なんだ！

由紀恵 当たり前じゃないですか、他にどこ行くんです

か？

雅樹 え、ここ知り合いの人の家？

由紀恵 知り合いもなにも、私の彼氏の家ですよ。

雅樹 彼氏！？ お前彼氏に仕掛けんのか？ お前もえげつないな。でもちようどよかつた、俺もめぼしい物があつたからそつちのほうが都合がいい。

由紀恵 それで、お兄さんがナイフを突き出して、私の恋人を怒鳴り散らすんですけど、

雅樹 うんうん、

由紀恵 このときに、人質をとることにしましよう。

雅樹 なるほど。誰を？

由紀恵 うーんと、そこは誰か近くにいる人を人質にとつてください。誰もいなかつたら私もいいんで。

雅樹 わかった。

由紀恵 で、ついでに「金を出せ」とか言っちゃいましょう。

雅樹 いくら要求する？

由紀恵 500万とかでいいんじゃないですか？

雅樹 彼氏から500万か。えげつねえお前。よし、わかつた500万でいこう。

由紀恵 重要なのはその辺ですかね。あとは流れで。

奥の部屋から智子が出てくる。

智子

あ、どうも。  
雅樹 あ、（警察官の感じで）ご苦労様です！ 失礼します！

智子 あ、どうも。

す！

修は去っていく。

智子 あ、どうしたんですか由紀恵さん？

由紀恵 あ、財布忘れちゃって。

智子 （小声で）あんまり頻繁に戻つてきちゃうと怪しまれますよ。一応ケンカ中つていう設定なんですから。

由紀恵 ゴメンゴメン。

奥から隆太がやつてくる。

隆太 誰かいるの？ あ！ ど、どうしたんだよ由紀

恵？

由紀恵 忘れ物。

隆太 あそう。

由紀恵 （財布の中身みて）あれ、おかしいな。スーパーのポイントカードここにあると思ったのに。どつかい

つちやつた。

智子 （小声で）いいですから今は、

由紀恵 でも、もう少しで溜まつたのに、

智子 ポケットかどつかから出ますって、

隆太 うん、出てくる出てくる、

みなみ 奥の部屋から出てくる。

みなみ 出てきていいの？

隆太 ダメだ！（閉める）

智子 あつあつあー！ あー瘦せるー！ 瘦せるわー！

由紀恵 今誰かいたよね？

智子、渋い顔。

隆太 いや、いなかつたと思うよ。

由紀恵 いやいや、いたでしよう？

隆太 いや、どうかな？

由紀恵 （大声で）出てきなさい。

みなみ、奥の部屋から出てくる。

隆太と智子、頭を抱えてどうしようか考える。

みなみ え、誰？

由紀恵 いや、こっちのセリフなんですけど？  
みなみ え、誰なの隆太くん？

由紀恵 隆太、誰なの？

隆太 （観念して）……彼女です。

由紀恵とみなみは顔を見合わせる。

智子 ……そして、お姉さんです！

由紀恵・みなみ ああー、はじめましてー。

隆太 え、ああ！ おう！ そう、そうなんだよ！

みなみ え、ちよつといい？ 隆太くん。

隆太 （みなみに近づき小声で）うん、なにかな？

みなみ なんで小声なの？

隆太 姉さんに彼女との会話をかれたら恥ずかしいだろ。

みなみ 三人兄弟？

隆太 え、（智子を見て）あ、うん、そう、三人兄弟なんだ。

言つてなかつたつけ？

由紀恵 （みなみに）どうも弟さんにお世話をなつてます。

みなみ え？

隆太 姉さん、俺のこと弟さんって呼ぶんだよ、変わつ

てるだろ？

みなみ にしても弟さん「が」世話になつてますじやない？

隆太 ああ、たまに日本語がおかしいんだよ姉さん。

みなみ はじめまして、隆太くんの彼女の、みなみって  
言います。

由紀恵 え？

隆太、どうにもできない。

由紀恵 トモちゃん、ちよつと。

智子 はい……。

智子は由紀恵のところに行く。

由紀恵 あのさあ、ひとつ聞いていい？

智子 なんでしょう……。

由紀恵 あの人つて、隆太の浮気相手？

智子 ……。

由紀恵 あの人、隆太の浮気相手なの？

智子 （観念して）……はい、……そうです。

由紀恵 なるほどね。……さすがトモちゃん、

智子 え？

由紀恵 浮気相手役の人まで連れてくるなんて、さすが

トモちやんだわ。

智子 ……そうなんですよ、全然知らない女が突然やつてきて隆太と付き合つてるって言い張つてるっていう

設定です。

由紀恵 盛り上げてくれえトモちゃん。

智子 かなり仕込んだんで、隆太も相当なパニックになつてますよ。

由紀恵 なるほどね。

智子 それで今、由紀恵さんが浮気相手を名乗る女と遭遇してしまつて、隆太がパニックになるつていうのをやつてます。

由紀恵 なるほどなるほど、じゃあここは私も盛り上げなじやあそろそろ、トモちゃんのお兄さんが、空き巣として登場してクライマックスつていう感じね。

智子 え、いや、それは、

顔を隠した雅樹が玄関からやつてくる。

雅樹 おいおいおめーら、手えあげろ！

みなみ わああ！

みなみは、奥の部屋に引っ込んでしまう。

隆太 あ、お前！

智子 このタイミングで……！

雅樹 おい、うつせーぞ！ おい、おめーか、人の女に

手え出したのは？

隆太 は、はい？

雅樹 てめえと一緒にいる女だよ。なに人の女に手え出してんだよ。

隆太 え、え、みなみさんのことですか……？

雅樹 あ？ ああ、そうだよ。

雅樹 あいつ、三股だつたのか……。

雅樹 おい、ごちやごちや言つてんじやねえ。殺すぞ。

雅樹 ま、待つてください。

雅樹 許してほしかつたら、金だしな。

雅樹 ま、またですか？

雅樹 なんだよ「また」つて？

雅樹 だつてもう、片方から350万請求されてるのに。雅樹 知らねえよ、そんなこと、500万だ！ 500

万出しな！

隆太 ご、ご……無理ですって、

雅樹 無理じやねえよ。(智子を指して) おい、そいつ誰だ？

雅樹 だ、誰というのは？

雅樹 どういう関係だ？

雅樹 あの、幼馴染で。

雅樹 ちよつと来い。

智子 ……はい。

智子、雅樹のところへ行く。

雅樹 このネックレスはもらつとくぜ。

雅樹、智子を人質に取る。

智子 (小声で) ちょっと兄ちゃん、力強すぎ……。

雅樹 うつせえ！ (隆太に) おい！ 500万出せよ。

隆太 む、無理ですって、  
雅樹 そんぐらい持つてることはわかつてんだよ、(由紀  
恵に) なあ、こいつ金持つてんだろ？

由紀恵 (小声で) 実際はすごい貧乏ですけどね。

雅樹 おう、てめえ実際にはすごい貧乏なん、え、貧乏  
なの？

由紀恵 (小声で) 実際はね。

雅樹 えお前貧乏なの？

隆太 貧乏です……。

雅樹 え500万出せないの？  
隆太 絶対無理です……。

雅樹 えじやあ100万は？  
隆太 無理です……。

雅樹 50万。

隆太 (首を振る)  
雅樹 30万。

隆太 (首を振る)  
雅樹 10万。

隆太 (首を振る)

雅樹 いくらなら出せんの？

隆太 3000円くらいなら……、

雅樹 ナメてんのかお前！ こいつ殺すぞ！

隆太 ナメてないです、やめてください、それくらいが  
限界なんです……、

修 顔を隠した修がやつてくる。

修 おいおいおめーら、手えあげろ！

一同 うおおお！！

一同、散り散りになる。

智子 ……え？

由紀恵 え、トモちゃん、浮氣相手の男役、ひとり増え  
たの？

智子 (首を振る)

少し間。

智子 私の兄ちゃん手えあげろ！

修は手を挙げる。

智子 サングラスとつて。  
修 うん。

サングラスを取る。

修 ……え、どうしてみつちやんがこんなところにいる  
んかい？

みなみ それは……。

修 ……おい、どういうことだ？ おい！

みなみ ……。

修 今日は女友達と泊まりの旅行だつて言つてたよな？

みなみ ……。

修 ……ここで不倫してたんだな？

修 みなみ（小さく頷く）

修 じやあここにいるんだな、浮氣相手が？

修 みなみすみません……、

修 どいつだ？

修 みなみごめんね、もう隠しきれない。

みなみ さっきの人になくなつた？

修 え？

隆太と智子、とても苦い顔。

みなみ、そのまま扉をしめていなくなる。

修 みつちやん。……みつちやん！

みなみは出てくる。

修 ……みつちやん、だよな？  
みなみ ……。

雅樹 いやいやいや、いやいやいや、  
みなみ 強盗を装つて修ちやんを殺そうとしたの。  
修 貴様ア！

雅樹、驚愕する。

みなみ（雅樹を指して）……彼です。

修、雅樹をボコボコにする。

隆太・智子・修 え？

雅樹 え？

由紀恵 え？

修 おい、電話で話したよな？ 手切れ金350万は用意できるんだろうな？

雅樹 さ、350万！？ なんですかそれ？

修 とぼけてんじやねえぞてめえ！ 用意できなかつたら前歯へし折つてやるからな！ 小林隆太さんよお！

雅樹 知りないです、コバヤシリュウタじやないです！ 修 うつせえ、てめえが小林隆太じやなきや誰が小林隆太だつて言うんだよ？

由紀恵 小林隆太つて、彼ですか？（隆太を指す）

隆太 苦悶の表情。

修 なに言つてんですか、俺が言つてんのは小林隆太ですよ。この人は隆太さん、隆太さん？ 小林隆太……、

隆太 ……はい、

修 ウソでしよう、だつて、智子の命の恩人が、小林隆

太だなんて、嘘だ、ねえ、嘘だつて言つてくださいよ。 隆太 ウソじやありません。

修 そんな、まさか……、おい待て、じやあてめえいつたい誰だよ？

由紀恵 トモちゃんのお兄さん。

雅樹 いや、私の兄は、こっちですけど。 智子 いや、私の兄は、こっちですけど。

由紀恵 え、このヤクザみたいなのが？

智子 はい、

由紀恵 ウソ、だつて、（雅樹のサングラスをとる）こっちがトモちゃんのお兄さんじやないの？

智子 あ、さつきのお巡りさん。

雅樹 どうも。

修 ええ！？ け、警察の方だつたんですか、こ、これ

はとんだ無礼を……、

雅樹 まつたく失礼ですよ、警察にこんなことを！

修 申し訳ございません！

智子 あ、待つて、そういうえばこの顔どつかで見た気が。

ねえ、由紀恵さん、この人、ニュースで流れてた空き巣の人に似てませんか？

由紀恵 あ、言われてみれば。

雅樹 ……。

智子 すみません、警察手帳を見せてください。

雅樹 はい？

智子 警察手帳。

雅樹 そんなものを見せる義務はない！

修 見せられないんですね？

雅樹 それは……。

智子 あ、そういうえば、この人さつき私のネックレスと  
つた！

修 失礼。

修、雅樹のポケットから智子のネックレスを出す。

修 貴様ア！

修、雅樹をボコボコにする。

修 あとで警察に送つてやるよ。

少し間。

修 それで、隆太さんが、小林隆太なんだな。

隆太 はい……。

由紀恵 あの、何に怒つているのかはわからないんですけど、私の彼氏のこと、どうか許してくれませんか？

みなみ え？

修 ん？ ……そうか、そういうことになるのか！

（隆太を掴んで）なあ隆太さん、あんたヒトの妻寝とつた上に、しかも二股だつたんだな。

みなみ え、え、なに、どういうこと？

隆太 あの、それは……。

由紀恵 てつててー！ ドッキリでしたー！  
一同 ……え？

由紀恵 なんかよくわかんないんだけど、ごめんね、グダグダになつちやつて。ほら隆太、ドッキリだよドッキリ！ 大成功ー！

隆太 え、え、なに、これ、ドッキリ？ なに？ どういうこと？

由紀恵 （みなみを指して）この人は、隆太の浮気相手役を演じてたの。どう、びつくりした？

修 え？

隆太 演じてた？

少し間。

智子 そういう！ そうなの！ 全部ドッキリ！ 全部全部、今日起こつたことは全部ドッキリでーす！ 隆太

騙されてやんのー！（拍手）

隆太 え、なになに？ えドッキリ？ 僕安心していいつてこと？

みなみ え、え、演じてたつてどういうことですか？

智子 お誕生日おめでとう隆太！ サプライズバースデー！

隆太 あそうか、今日俺の誕生日か、そうかそうか忘れ

てた。

みなみ え、え、私隆太さんとお付き合いしてましたけど。

由紀恵 いやもうそれ終わりましたから。

みなみ いやもうそれ終わつたってなに？

由紀恵 浮気相手役の設定はもう終わつたんで、

みなみ いや役つていうか、実際付き合つてんですけど、智子（みなみに小声で）空気を読め！ ドッキリつてことにしておけば、不倫だつてなかつたことになるんだよ！ 由紀恵 え、あの、隆太と付き合つてんのは私ですけど？

智子 由紀恵さん、いいから、もう全部嘘ですか。

修 もうういいよ智子。

智子 いや、いいとかじやなくて、嘘だから。全部嘘だから。

修 もういい。

間。

修 隆太さん、すべて正直に話してくれますね。

間。

隆太 ……すみませんでした。

修 ……話してください。

間。

隆太 ……そこにいる由紀恵と付き合い始めたのは4年前です。学生の頃、バイト先の居酒屋で知り合いました。

由紀恵はとても頼れる存在で、僕はゆくゆくは結婚したいと思ってました。……ですが、4か月前にみなみさんと出会つてしましました。僕がバイトから帰る途中で、彼女が痴漢に遭つてたのを助けたのをきっかけに会うようになつて、気づいたら付き合つてしまつていました。結婚していることは知つていませんでしたが、まさか智子のお兄さんだなんて夢にも思いませんでした。

あと、34だつたつてことも、夢にも思いませんでした。……みなみさんは由紀恵とは違つて、僕を頼つてくれます。弁護士だとか年収1000万だとか見栄を張つていましたが、全部でたらめです。由紀恵には由紀恵の良さがあつて、みなみさんにはみなみさんの良さがあつて、別れることで傷いたり悲しんだりする顔を見たくなくて、どうすることもできませんでした。

修 そうか……、（雅樹を指して）こいつは？

隆太 その人は、……なんなかまつたくわかりません。

修 そうか……。智子は、隆太さんをかばつていたんだな。どこまで知つていた？

智子 ドッキリの計画が始まつてから、この1、2時間

で全部知りました……。

修 そうか……、それは、とても大変だつたな……。

智子 はい、吐くかと思いました……。

修 事実がすべてわかつたところで、由紀恵さんはどうするつもりですか？

由紀恵 え、どうするつて、別れますよ、もちろん。

隆太 由紀恵え……、

由紀恵 だつて気持ち悪いですもん、他の女の人と付き合つてたなんて。あーあ、結婚も少しは考えてたのに残念です。

修 そうですか。俺は、みなみとは離婚します。

みなみ え？

修 当然だ、不倫なんだから。慰謝料はとらないでやる

からとつと出てつてくれ。そのあとはこの男とどう

なろうと構わない。

智子 いいの兄ちやん……？

修 母さんや父さんに顔向けできなが仕方ない。（みな

みに）さあどうする？ この男とこのまま付き合つてい

くか？ みなみ （舌打ち）付き合わねーよ。金もつてねーみたいだし。

修 隆太さん、キミは智子の命の恩人だ。そんな人に俺

はなにも復讐する気は起きない。それに、智子が幼馴染として隆太さんとの付き合いを続けるかどうかは智

子の勝手だ。だが、俺はもう二度とキミとは顔を合わせない。二度と、絶対にだ。すまないが、そうさせてくれ。

隆太 申し訳ございませんでした……。

修 隆太さん、キミはさつき、「別れることで傷いたり悲しんだりする顔を見たくない」つて言つたけどね、それはキミのエゴだ。それは逃げてるだけだ。逃げ続ければ、いつかこうやって、大切な人がもつと深く傷ついて悲しい思いをすることになる。……それが、俺からの、最後の言葉です。（雅樹に）じやあ、キミは警察まで行こうか。

雅樹 はい……。

修 （隆太に）さようなら。

修と雅樹は去つていく。  
少しして、

みなみ （舌打ちして）さよなら。

みなみは去つていく。

由紀恵 隆太、

隆太、由紀恵の方を振り向く、

なればいいよ。

由紀恵 4年間、まあまあ楽しかったよ。ありがとう。

私はもう隆太の人生からは消えるし、隆太ももう私の人生からは消えるけど、元気尼やつて。トモちゃんも、もう会えないのは寂しいけど、会つたら隆太のこと思い出して胸糞悪くなるから、ごめんね。

智子 隆太が、すみませんでした……。

由紀恵 うん、さよなら。

由紀恵は去つていく。  
間。

隆太 ……なんだよみんなして、俺のことばっかり責め

て、みんなのために嘘ついてきたのに。

智子 自分のためでしょ？

隆太 ……。

智子 自分を良く見せたい、自分が傷つきたくない、自分が嫌な思いをしたくない、結局嘘なんて全部自分のためでしょ？

隆太 ……どうかな。

智子 でも、楽になつたんじゃない？ もう誰にも嘘つかなくて済んで。

隆太 それは確かに。

智子 今度からは、嘘なんかつかなくていい人と一緒に

隆太 確かに。結局智子と一緒にいるときが一番楽だ。

智子 これからは、嘘なんかつかないようにしよう。嘘なんて、誰のためにもならないんだから。

隆太 うん、もう嘘なんてつかない。

智子 私も、もう嘘なんかつかないようにしてよう。

隆太 智子はんまり嘘つかないだろ。

智子 どうかな。

少し間。

智子 嘘つかないで、素直な気持ちで言うんだけど、

隆太 うん、

智子 私、嘘ついてる隆太は最低だし面倒くさいから本当に嫌い。

隆太 ……。

智子 でも、なににも気を遣つてない素のときの隆太は、まあ、いいかな、って思つてるよ。

隆太 ……。

智子 どう？ 付き合つちゃう？ 彼女もいなくなつたことだし。なんつって。

隆太 ……智子、

智子 ……、

隆太 僕も、今そう言われて感じたこと、嘘つかないで、

素直な気持ちで言いたいと思う。

智子 どうぞ、

隆太 僕、智子のこと、

智子 …、

隆太 異性としては見れないっていうか、女としては、

ぶつちやけ、ないなって思う。

智子 (地面に倒れ込み) だあああ！

照明カットアウト。音楽。

幕

作・小佐部明広